

施策評価シート(平成31年度実績評価)

施策の基本情報

政策No	0203	政策名	防災危機管理体制の充実	施策主管課	消防本部	課長名	八重樫 晴彦
政策の目指す姿		災害や様々な危険から守られ、暮らしています					
施策No	04	施策名	救急救助体制の強化	関係課名			
施策の目指す姿		迅速な救命・救助が行われています					
現状と課題							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の退職や異動により、救急救命士等の資格取得者が減少してきています。</li> <li>・各種災害に対応した迅速で効率的な現場活動が求められています。</li> <li>・救急隊員の行う救命処置向上のため医療機関との連携強化が重要です。</li> <li>・応急手当実施率や救命率の向上を図るため、より多くの市民に正しい心肺蘇生法を身につけさせ、市民に応急手当の重要性を理解してもらうように充実した応急手当講習会を実施する。</li> </ul>							

前年度の評価の振り返り

前年度評価時の今後の方向性							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急車適正利用の普及啓発を更に推進し、救急車の出動件数の減少や救急車到着平均時間の短縮を図る。</li> <li>・運用救急救命士の充足を図るため、計画的に救急救命士養成研修所に派遣するとともに、専門学校卒救急救命士有資格者の就業前病院実習を終了させ運用救急救命士として救急業務に従事させることを考慮する。</li> <li>・各種災害に迅速に対応する為、各種訓練を積み重ね、隊員個々のレベルアップと隊員間の連携強化が図られた。</li> <li>・災害通報時における通信員の対応力強化が図られ、救急要請時における応急手当実施率が大きく向上した。今後は、救命率の向上に繋げていく。</li> <li>・応急手当講習会は、受講者の年齢層や環境に合わせ、親しみやすく分かりやすい内容となるよう留意し実施し、理解向上を図った。</li> </ul>							
反映状況							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・応急手当講習会等において救急車の適正利用について普及啓発し、救急出動件数が昨年より161件減少、結果僅かではあるが救急車到着時間の短縮につながった。</li> <li>・救急救命士有資格者を効率的に就業前病院実習へ派遣し、継続的に運用救急救命士の養成を行い計画目標数42人を目指していく。</li> <li>・災害通報時における通信員の対応力強化が図られ、救急要請時における応急手当実施率が大きく向上した。今後は、救命率の向上に繋げていく。</li> <li>・応急手当講習会は、受講者の年齢層や環境に合わせ、親しみやすく分かりやすい内容となるよう留意し実施し、理解向上を図った。</li> </ul>							

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

<p>(1) 迅速な救急救命体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>救急救命士、救急隊員の養成 ・救急救命士新規養成1人、救急救命士処置拡大講習派遣1人、新規救急隊員養成4人</li> <li>救急救助資機材の充実 ・ライフジャケット個人貸与、消防用ホース、空気ボンベ等の更新</li> <li>医療機関との連携強化 ・救急業務懇談会の開催、救急医療懇談会への参加</li> <li>救急講習会、コミュニティFM等を活用した救急車適正利用の啓発 ・応急手当講習196回実施、5,409人受講</li> <li>携帯電話位置情報システムの活用と固定電話の利用啓発 ・応急手当講習会等に説明</li> </ul> <p>(2) 応急手当の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>応急手当普及員と連携した市民への応急手当講習の実施 ・応急手当普及員講習、再講習時に推進を説明</li> <li>自主防災会訓練時の応急手当講習の推進 ・自主防災組織、自治会への応急手当講習 19回</li> <li>小学校高学年を含めた市民への救急講習の普及推進 ・小学生対象10回 469人受講、中学生対象20回 794人受講</li> </ul>							
--	--	--	--	--	--	--	--

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方	成果指標の測定方法	単位	数値区分	H28	H29	H30	H31	R02	R03
救急車到着平均時間(暦年)	救急救助体制の速度を示す指標	救急出動に係る情報はその都度救急統計システムに入力し、毎年編纂される消防年報に収録している。	分	目標値		7.80	7.80	7.80		
				実績値		8.50	8.80	8.70		
応急手当実施率(暦年)	応急手当に対する市民の理解度を示す指標	家族等により応急手当が実施された傷病者数/救急搬送された心肺停止傷病者数 救急隊の出動記録により集計を行っている。	%	目標値		47.00	48.00	49.00		
				実績値		45.00	48.60	58.20		
				目標値						
				実績値						

### 3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
C	<p>成果指標「救急車到着平均時間」・・・【達成度c】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急出動件数は前年比-161件となっており、署所管轄外への出動の減少が前年より到着時間が短縮した要因と考えられる。</li> </ul> <p>成果指標「応急手当実施率」・・・【達成度a】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H31は実績値が目標値を大きく上回った。要因として通信指令員の行っている「通報者に対する口頭指導」の充実強化の効果と応急手当講習受講者が増えたことにより応急手当への理解が広がり成果に繋がったと考える。</li> </ul>

### 4 施策を構成する事務事業の検証

市民のニーズや市の関与の必要性が低下した事業、 投入コストの割に成果が低い事業、 施策への貢献度の低い事業はないか
なし
施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか
<p>(消防・救急救助充実強化事業) 救急車の現場到着平均時間が僅かではあるが短縮していることは、救急車の適正利用の啓発等により軽症者の要請件数が減少しており、このことも救急件数が減少した一つの要因と考えられる。引き続き救急車の適正利用について啓発を行い迅速な救急体制強化に繋げていく。また、各種災害対応力強化のためには隊員の対応力の向上を図っていくことが重要であり、引き続き各種訓練や研修会に職員を派遣し、知識の習得と技術の向上を図っていく。</p> <p>(応急手当普及事業) 必要な時に適切な応急手当が実施できるよう、応急手当講習を継続的に行っていく必要がある。</p>
新たに取り組むべき事業はないか
なし

### 5 施策の総合的な評価

課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急救助体制強化のため「救急救命士養成計画に基づく」救急救命士目標人数42人に達するよう今後も継続して運用救命士を養成していく必要がある。</li> <li>・更なる救命率向上のためには、救急車が到着するまでの間の家族等による応急手当と救急車の適正な利用が重要であることを市民に理解していただく必要がある。</li> <li>・多種多様な災害に対応するため、より高度な救助技術を習得する必要がある。</li> </ul>
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運用救急救命士の充足を図るため、計画的に救急救命士養成研修所に派遣するとともに、専門学校卒業の救急救命士有資格者の就業前病院実習を実施し、運用救急救命士として救急業務に従事させることを考慮する。</li> <li>・応急手当実施率や救命率の向上を図るため、多くの市民に正しい心肺蘇生法を習得していただくとともに、応急手当の重要性を理解していただけるよう内容充実させた応急手当講習を行う。</li> <li>・消防学校専科教育や各種研修会に職員を派遣し、高度な知識と技術を有する隊員の養成及び育成を行う。</li> </ul>

施策を構成する事務事業一覧

No	事務事業名	担当課	施策への貢献度		
	事業内容(活動実績)		対象	意図	成果
			直結度		
010	<b>消防・救急救助充実強化事業費</b>	消防本部	一致	直結	B
	消防隊員の育成と消防体制の強化 (消防学校教育への派遣、緊急車両等免許取得及び消防活動装備品の整備)			A	
020	<b>応急手当普及事業費</b>	消防本部	一致	直結	A
	応急手当普及事業 (開催回数：196回 受講者数：5,409人)			A	